



元気に泳げ

### あらためて考える・運動の軸を

### どこにおけばよいのだろうか

1989年7月に実施をされた第15回参議院選において、社会党は「全国比例得票は1968万票、得票率35%、当選20議席。選挙区においての総得票は1500万票、26.4%、当選26議席を獲得した。その時の党首は「土井たか子」であり、年が明けた1990年1月の第39回衆議院選挙においては、選挙区1600万票、得票率24.4%、136議席の確保という大きな成果を生み出すことができた。「山が動いた」という土井たか子党首の勝利宣言を私たちは記憶をしている。

しかし2年後の1992年の参議院選挙においては、全国比例79万と半減以下となり、党首「村山富市内閣」を構成しつつも支持は回復できず、再度の土井たか子党首の復活により、闘いを挑む中での1996年の第41回衆議院選挙においては、全国比例365万票「11議席」、選挙区124万票「4議席」という激減の経過をたどった。

さらに二年後の第二次橋本内閣の参議院選挙（1998年7月）においては「比例区4・選挙区1」という結果に終わった。

これらの実態を受け、旧総評系の退職者組合が中心となり、社民党を励ます「ガンバレOB・Gの会」の結成が提起され、その運動は全国展開と

なった。そこで考えてみたい。

社会党から社民党へ変更したとは言え、党は労働者を軸とした政党であり、その方針は変わらない。また戦後の混乱の中での日本の経済、政治の立て直しの運動の中心が、「今・高齢者」であったことも誰もが認めることである。

そして今、別記の「年齢別政党支持率」を検索した。もちろんマスコミによる世論調査の結果ではあるが、支持率の実態を知ることができる。

また、悔しく、そして残念なことであるが、時期に合わせて行う世論調査でも「社民党」の姿が見えない、また小さい。

この結果はどうしたことであろう。

社民党の再起を求めて、全国的な動きとなった「高齢者の運動」に誤りがあったのだろうか。

社民党の方針とその運動に大衆の期待に応えられない者があつたのだろうか。

そして改めて福島県の「OB・Gの会運動」を顧みたい。2000年の結成集会には、福島県労協に加入をしていた労働組合の退職者を中心に200名余の皆さんが郡山市に結集した。しかし会員の高齢化は、その動きの停滞に加え、「現・退一致」という労働組合の方針もあり、OB・Gの会への加入は任意であつたが、退職者会から選出され、構成された「運営委員会の継続」が果たせず、また当初5総支部にあつた「地区の会」も、現在は郡山地区のみとなっている。

そこに社民党の「立憲民主党」との合流があり、

社民党年代別支持率 TBSテレビ 2022年7月7



その中で継続ができていた「OB・Gニュース」の県内850余の配布も、現在は400余と激減した。しかし残った県内総支部の現地担当者の努力で、「現地印刷・配布」を果たしている。

今般、「SDP自治体議員団ブックレット」が発行され、その編集も「税、社会保障」などの生活課題である少子、高齢社会への取り組みが提起されている。そのことは社民党の立て直しを追求する「高齢者運動」と結びつけたものと受け止めたい。そこに立ち返ることができないのだろうか。

確定申告の時期が「自民党の裏金問題」が重なり、指定税務署に「紙申告」をする高齢者からは大きな怒りが巻き上がっている。加えて高齢者の過剰医療、過剰介護を抑制するために高齢者への医療負担を上げるべきという国会論議が展開されている。今こそ、その怒りを結集すべきではないか。あらためて考えたい。（文責・降矢）

# 【1945年】

## 気づいたこと・感じたこと



### 1945年(4月12日)を考える

太平洋戦争末期、米軍は日本の生産力を潰して、日本を敗北に追い込むために激しい空襲を行いました。福島県郡山市は軍需関連の工場が集積してその標的になりました。昭和20年(1945年)4月12日の昼、B-29爆撃機の編隊200機が来襲。保土谷化学郡山工場、日東紡富久山工場などを中心に攻撃を受け、近隣の国鉄郡山駅周辺までもが被害に遭いました。

工場には福島市や遠く離れた浜通りのからも動員された中学生や女学校生がいました。そのうち県立白河高等女学校の生徒14人をはじめ犠牲者は40人以上にのぼりました。毎年4月12日になると郡山市内にある如寶寺で亡くなった動員学徒(中学生や女学校生)の慰霊祭が行われています。また100キロも離れた相馬・原町から動員された女性は、空襲で手足や首のない死体を横目に逃げ惑い、それから66年後には福島第一原発事故で自宅を離れての避難を余儀なくされました。

(事務局)

保土谷化学郡山工場における米軍の空爆による

### 学徒戦没者出身校

- 安積高等女学校
- 白河高等女学校
- 郡山商業学校
- 米沢高等工業専門学校
- 安積中学校
- 桃見台国民学校
- 高等科

## 避けられない二つの問題

### ……介護・医療の負担は……

若干古いデータになりますが、厚生労働省が2021年12月に発表した「健康寿命の令和元年値について」の資料があります。そこには男性の平均寿命は81.41歳に対して健康寿命は72.68歳。女性は平均寿命87.5歳に対して健康寿命75.38歳ということになっています。

それによりますと男女とも70代で健康寿命が終わっていることになり、身近な70代の人を思い浮かべますと、思ったよりずっと元気な人が多いと思います。もちろん70代で要介護になる人もいますが、今の70代の大多数は元気で活動的で、そしておしゃやれです。しかし、病院の待合席に行きますと高齢者の多いのも事実です。また70〜74歳で、介護保険の介護予防サービスと介護サービスを受給している人の総人口に対する割合は、男性4.4%、女性3.9%。75〜79歳でも、男性7.9%、女性9.1%と1割に満たないという実態もあります。

(令和4年度 介護給付費等実態統計の概況) しかし「長生きするのが怖い」という方が居るのも事実です。つまり介護が必要になった場合に、妻が夫を、または夫が妻の介護が可能かという不安です。また子供がいても別居をしている。しかも遠距離となれば「遠距離介護」となります。長く続けられる保証はありません。

また近年注目をされているヤングケアラーがあります。高齢者が増えるのに対し子ども数は減少。さらに共働きなどにより両親が家にいな

いという家庭の子どもが、自宅で年寄りの面倒を見るという実態です。その実態は小学6年生6.5%(約15人に1人)・中学2年生5.7%(約17人に1人)・全日制高校2年生4.1%(約24人に1人)・定時制高校2年生8.5%(約12人に1人)という報告があります。

(2023年8月28日・文部科学省の調査) では介護状態になったらどれくらい期間と費用がかかるのでしょうか。

生命保険文化センターの調査によると、介護期間の平均は61.1カ月(5年1カ月)であり、その内容は4〜10年未満が31%。10年以上が17.6%とかなり長い期間におよびます。

さらに公的介護保険のサービスを受ける場合原則1割負担であっても、実際にかかった介護費用に関する自己負担をみれば一時的な費用が平均74万円。毎月にかかる費用の平均が在宅の場合4.8万円、施設の場合12.2万円と高額です。

統計データから一時的な費用と毎月にかかる費用の合計したトータルでかかる平均的な介護費用は、介護期間を平均値の61.6カ月で試算した場合、在宅の場合で約367万円、施設の場合で約820万円にもなります。この負担も大きな悩みとなります。

(公財)生命保険文化センター令和3年度 生命保険に関する全国実態調査

### ……主治医の前で見せる家族の姿……

若干古い政府調査であるが、2016年の厚生労働白書によると、入院患者の退院にあたって「自宅で療養できるか」との問いに対し54.2%の方が「可能」と答え、「自宅で療養できない」との回答も25.9%があった。そこで総務省が実施をした

2020年の国勢調査がある。

そこには単身世帯の急増の実態があり、前回の調査(2015年)より14.8%増となっている。それは一般世帯の38.1%を占めるものであり、あと数年で単身世帯の実数は40%を超えるだろうことが示されている。当然にして、「自宅で療養できない」という実態がますます増加することを認識しなければならぬ。

また市町村が介護認定する場合、その審査で欠かせないものに主治医の意見書がある。その医学的な意見書は、審査の判定に用いられると同時に患者の症状の安定性、心身の状態、生活機能など医療、介護に関する情報となる。

そのようなこともあり、長期にわたって入院をした患者が退院するにあたって主治医は、その家族と面談し、退院後のケアの主たる家族は誰かと言ふことなどが話し合われる。しかしその場に集まった家族は、主治医を前にしてその責任逃れをする光景を目にすることが多々あるという主治医の報告がある。各々は家族を持ち、将来の生活設計を持っている。当然にしてそのことを守り、覆されることへの悩みと抵抗が、前記のような悲しい場面となって表れるのだろう。

個人的な解決に求めることの限界はすぐ目の前にきていることを知るべきであろうことを訴えたい。(以上二つの報告は事務局による)

次の文章は「憲法を生かす福島県民の会総会」に講師としてお出でになられた水島朝穂先生(早稲田大学法学部教授)から頂いた一文です。左記の先生のメールアドレス(直言)を紹介いたします。ぜひご覧ください。

(<http://www.asaho.com/jpn>)

私自身も後期高齢者に一歩近づいていますので、ニュースの大半をしめる高齢者問題は痛いほどわかります。今回は、先週「国賓待遇」で訪米した岸田文雄首相の「素敵な笑顔」と、米連邦議会の48回に及ぶ「素敵な拍手」の背景について考えました。いま国会売店で限定販売されている『キッシーの光る2024』というお菓子を食べながら、先週の前半まで「裏金」問題を中心に表情がさえない岸田首相が、米国ではなぜこんなに「光って」見えたのか。首相の議会演説や共同声明で「踏み込んだ」事柄の重大さについて、本人はどこまでわかっているのか。米側が「国賓待遇」にしたのはなぜなのか。共同声明の冒頭の「前例のなき高みという深み」の意味を考えます。

### 社民党神奈川の活動を支える

#### 「党内メーリングリスト」について

OB・Gニュースは、福島県内のみならず、県外の90名余の皆さんに「メールによる送信、あるいは郵送」をもって配信をしています。また各地区においても、それぞれ実態に応じた工夫と努力による活動が行われていると思います。

社民党神奈川における活動の一つに「党内メーリングリスト」による情報共有があります。それは登録メンバーに「一斉配信」するシステムで、そのメンバーには現在108人が登録されています。嬉しいことに「社民党がんばれOB・G福島の会」の「OB・Gニュース」が、そのメーリングリストを通じて登録されている皆さんに配信をされているとの報告を神奈川県連合の前田孝幸さんから頂きました。

工夫と努力による運動の拡散は重要です。その一つ「福島県OB・Gの会のニュースの取り上げ

ていただいていることに感謝し、社民党神奈川の活動報告を掲載させていただきました。ありがとうございます。(事務局)

#### Sさんの介護ノート その2

「訪問医療」「訪問看護」に移行して3か月目に移りました。

近所にも、若い時に事故で車いす生活を続けてきた利用者があります。「看取り」だけではなく、「生きる」ためとの思いをしています。

母親は高齢で脳の萎縮も進み、子供の小さい頃を思い出して「譫妄(せんもう)状態」での発言も度々となり、私も当初は「否定」ばかりしていましたが、これではこちらが続かないと感じて、最近、私の姉や私も家族の名前を書きだし、「繰り返し読ませる」練習をはじめました。自分100歳(本当は97歳)と言ってはばかりません。そして娘の歳は6歳と言います。そのようになっても「親の心配」は消えないのだとつくづく思っています。

#### 「コッパン」一個10円

##### つけ代5円に迷う

「子ども食堂」という記事をよく目にする。親が働いている子どもがよりどころとする「居場所」でもある。小学校の春休みは終わり学校給食が始まる。そこでホッとするのが働くひとり親である。そして戦後間もないころを思い出す。

まだ学校給食はなかった。それぞれが弁当を持参するが、その中身はサツマイモであったり米粒が僅かな山菜飯が多かった。

しかし、その時間になるときまぐれ校庭の砂場に子どもの姿があった。粗末な弁当さえも持たせ

ることができない家庭があった。

また家を出るときに時々15円が渡される。コッペパン代である。そんな記憶をたどりながら、パソコンにコッペパンと表示し検索をした。そして次の記事を見て改めて思い出した。

昭和27年ころも、パンの主力はコッペパンであった。そして店頭でジャムやアンコをつけて売るようになった。コッペパンが1個10円、つけ代が5円。いわゆるジャムをつけるか、あんこをつけるかである。そして5円玉を手に握りしめていつも迷った。

昭和25年に「学校給食」が始まった。その中身は、みそ汁または「脱脂粉乳」に「コッペパン」であったが、お昼時に砂場にいる子どもの姿は見るのがなくなつた。懐かしい思い出であるが、わびしい思い出でもある。

## 報告・提言のひろば



■今日は能登地震から3ヶ月、熊本地震と比べても復興がとて遅れています。政府の裏金問題の対応もいい加減だし、震災の復興に際しても手薄で驚くばかりです。介護サービスの引き下げも酷いものです。有事に備え「特定利用空港、港湾」のニュースも出てきて、いよいよ米国は台湾有事を起「そうと目論んでいるようでゾツとします。一刻も早く政権交代しなければ戦争が始まってしまいますね。がんばらねばと思います。

■「OB・Gニュース」が大きな励みとなっており、ます。この6月になりますと90歳になります故、なかなか体がいう事を聞きません。でもドイツの新聞は約1週間遅れですが丹念に読んでおります。そのなかで「OB・Gニュース」に役立つ記事が

あればと思っています。

■余裕のないまま活動をつづけております。活動任務を少なくしようとしておりますが当分無理ですね。昨年の半年はぎっくり腰のせいで寝返りのたびに目が覚め、慢性睡眠不足、やっと今年に入り、良くなりつつあります。社民党藤沢総支部に昨年、新入党員がふたり、67歳、27歳です。頼もしいです。OB・Gニュースは次のように社民党神奈川の皆さまへ転送いたしております。「社民党神奈川の皆さまへ。社民党福島OB・Gニュース4月号を転送します。編集者へのコメントがあれば、励みになると思いますのでよろしくお願いたします。」

■OB・Gニュース毎回受信出来ております。ありがとうございます。毎回着信毎に印刷して、総支部内で回覧しております。楽しみにしております。

■自民党の裏金問題、「3月を考える二つの問題」を含め適切なコメントに共感を抱きます。ニュースの200号を記念して、これまでのニュースの縮刷版を作成してみてもどうでしょうか。その時々的情景を振り返りつつ、歴史の証言でもある貴重な資料になると思います。

■暖冬で過「してきたが、三月になってからは厳しい寒冷の日々でした。相変わらずの日々ですが、だんだん外出が億劫になっていきます。自民党の「裏金問題」も原発同様、時間の経過の中で忘れ去られてしまうのでしょうか。今こそ、労働組合が支える野党共闘が必要であるはずなのに残念です。

■OB・Gニュースを受け取るだけで自分の近況報告もできず失礼をしています。実は下半身の機能悪化のため冬の三カ月間施設にお世話になりました。その施設で目にするこの多くが車い

すです。私もそうなるのかと考えてしまいました。買い物などは「介護タクシー」です。とにかく頑張ります。

■家にいるとTVを見る機会も増えます。野球は特に好きでも嫌いでもないのですが、どの局も大谷選手に費やす時間が多くさすがに辟易しています。元通訳のギャンブルの話も、どうやって送金したのかなどなど確定情報がない中で延々と時間を費やしています。この問題で考えることがあるとしたら、ギャンブルの場があれば、必ず依存症になる人が出るということだと思います。それでも国や大阪は「依存症対策をするから大丈夫」として統合型リゾート：IR IIカジノを作ろうとしています。一体この国をどういう姿にしようとしているのでしょうか。大谷選手の話になるについでチャンネルを替えながら考えてしまいます。

■ニュースを読み、いつも身につまされるものがあります。今、単身世帯が急増しています。私もその一人です。そして10年以上前の長期入院したときの記憶がよみがえります。6人の合部屋でした。隣の会話が筒抜けです。ある日、カーテン越しに聞こえたのが主治医と患者の会話でした。「明日、退院できますよ」と告げた主治医に対しての患者の懇願の言葉でした。「先生、もう少しここに置いてください。帰っても誰もいないんです。生きていけないんです」と。一日でも早く退院したかった当時の私にはその人の言葉が理解できませんでした。しかし今はその切実さがよく分かります。「単身社会」をどう生きるか。結婚していても離別、あるいは死別。誰もがいつか「単身」となる可能性はあります。ひとことではありません。

